

そこに 学校があった

休廃校の歴史

北ノ川中学校 (上)



大正中学校の分校としてスタート

旧大正町の「首都」が田野々ならば、北ノ川は「副首都」であろうか。その副首都にある北ノ川小学校の校舎に対して直角の位置に立つ南向きの瀟洒な木造校舎。これが北ノ川中学校である。閉校になったとは思えない存在感を今も保ち、学舎としてまだ呼吸しているようである。

さて、この国の中学校制度確立への第一歩が踏み出されたのは明治時代だが、現在のような中学校がスタートしたのは1947(昭和22)年であったことは、興津中学校の回で記した。ここ北ノ川でも同年、中学校が設立された。設立当初は大正中学校の分校としての出発であったが、翌年には独立した中学校となる。ただし小学校との併設で、これが以後30年以上続く。それが北ノ川らしい「小中連携教育空間」となっていく。

校歌は小中同一歌

1951(昭和26)年に木造校舎が建てられた。この年は打井川に分校が置かれた年でもある。打井川分校は1971年、北ノ川中学校に統合となり、その翌年に鉄筋一部二階建ての体育館が完成。さらにその7年後(1979年)に小学校と分離され、完全に独立した北ノ川中学校となったのである。そして時代は平成に入り、1994年に現在の木造校舎が完成した。設立時からこの頃までの地区の勢いや賑わいは、相当なものであったという。生徒数の推移を見てみよう。当該年齢の子どもたち全てが設立時(1947年)に入学できたかどうかは定かではないが、設立時1年生だった学年は、卒業時には30名を擁している。最多卒業生は1964年度の36名である。

前述の通り、北ノ川中学校は設立以来30年以上にわたり小学校との



上・校舎の玄関を入ると購買、2階は図書館だったという
下・お向かいの小学校とは渡り廊下でつながっていた
(開校記念誌より)

併設が続き、今で言う「小中一貫校」のようであった。「緑に映ゆる山脈の・・・」で始まる校歌は小中学校同一歌で、もちろん小学校では今も歌われている。



小中一貫のようだったことがわかる昭和46年度の学校要覧

修学旅行費用の一部をみんなで工面!

小中一貫校のような環境であったことと、また地域性からか、児童と生徒の距離も近かった。学校から北へ4km入った相去地区の方(1966年度卒業生)曰く「中学生は自転車通学でしたが、小学生は低学年でも同じ距離をてくてく歩くわけです。やっぱり放っておけなくて、自転車に載せられるだけ載せて、多い時は自分も入れて4人乗りで行き来したものです。舗装もしていないガタガタ道でしたのでほとんど曲乗りでした!」と笑う。

ところで、この当時の修学旅行先は大阪や奈良などの関西だったらしいのだが、その修学旅行費用の一部は、生徒たちが協力して工面したという。どんなことをしたのかを聞いてみた。窪川から技術者ごと来てもらって映画を上映し、その収入を費用に充てたり、あるいは、玉ねぎの苗を作って販売したりと、今聞くと、微笑ましくもあり、涙ぐましくもある。映画上映の際には、生徒たちはポスター貼りに奔走したというから「苦勞」の後の修学旅行の楽しさたるや推して知るべしである。(次回に続く)

町のうごき

(1月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	6,981	-7	男 3	14	16	12
女	7,530	-12	女 5	18	11	10
計	14,511	-19	計 8	32	27	22
世帯数	7,818	-15	(1月中旬の届出)			
窪川地域 10,370人		大正地域 1,995人		十和地域 2,146人		